

記者懇談会の記録

日 時	令和 6 年 12 月 20 日（金） 15：30～16：10
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-1・3-2
記者数	7 人

1 豪雪と雪対策の状況について

（市長）

豪雪と雪対策の状況について資料に沿ってご説明します。

まず「降雪及び積雪状況」についてです。本日午前 8 時現在のアメダスの観測によると、岩見沢市の累積降雪量が 257 cm で、平年値の約 1.3 倍になります。積雪深は 112 cm で平年値の約 2.5 倍と、平年を大きく上回っています。過去のデータと比較すると、令和 2 年度のシーズンに近い数値となっています。その令和 2 年度は、3 月末までの累積降雪量は 944 cm、最大積雪深 205 cm という記録的な大雪でした。その時の 12 月の値に近いという状況です。

添付の資料には、当市の気象状況を日ごとに独自に統計したデータを掲載しています。令和 2 年度から令和 6 年度の、11 月から 2 月までのデータで、午前 8 時現在の 24 時間降雪量や積雪深などを記録したものです。この表の中で、24 時間降雪量を色分けしています。黄色が 10 cm 以上、赤が 20 cm 以上、紫色が 30 cm 以上、黒が 50 cm 以上を示しています。

令和 6 年度の 12 月の 24 時間降雪量の欄をご覧くださいと、12 月 11 日の 16 cm の黄色以降、連日赤色や紫色が続いています。平成 23 年度の豪雪のシーズンでも、これほど 20 cm 以上の降雪が続いたことはありません。まさに未曾有の降雪に見舞われたと言ってよろしいかと思います。11 日から 18 日までの 8 日間の合計降雪量は 178 cm に達し、本日までを加えますと、195cm の降雪となり、まさに災害級の豪雪と認識しています。

さらに、いわゆる村松バンドによる局地的な降雪が特徴的で、市内でも地域によって雪の降り方に違いが生じています。雪雲の通り道だった市内の北部から中心部、東部にかけての降雪量が多くなっています。

次に「除排雪実施状況」についてです。運搬排雪は、降雪量が多かった地域のバス路線を中心に 16 日から 3 班体制で開始し、現在は 5 班体制に拡大して運搬排雪を続けています。その他に吹き飛ばし排雪が 1 セット、それから、車道拡幅「肩積み」と言っている作業ですが、これが 1 セット、合計 7 セットで排雪に取り組んでいます。

資料中、今年度の値は本日の排雪延長分も見込んでいますが、運搬排雪の延長が 24 km、そのうちバス路線が 20 km となっており、これはさらに増えると思います。バス路線で 2 箇所ほど再度排雪に入れなければならない所を想定しています。なお、過年度のデータは 12 月末の数値です。

次に「豪雪パトロール状況」についてです。12 月 17 日から当市の「雪害の対応方針」をレベル 3 の「豪雪警戒体制」に引き上げています。一人暮らしの高齢者宅など要援護者宅の状況確認、

安否確認と、必要に応じた支援を行う豪雪パトロールを実施しています。市内全域の対象世帯 2,537 世帯のうち、除く地域としては、幌向と、東部丘陵地域を除く栗沢地域、ここは雪が少ないので除き、特に雪の多い地域 1,730 世帯を対象に、昨日から職員 42 名 14 班体制で、間口、雪庇、ストーブの給排気口などの状況を調査するほか、緊急支援が必要な場合は除雪の支援を行いました。対象地域を絞り込んだあとも降雪が続いたため、現在、南町地区などの 348 世帯を追加し 2,078 世帯を対象世帯としています。昨日で 1,189 世帯のパトロールが終了し、うち支援実施世帯が 13 世帯となっています。本日も午前 9 時から活動を継続し、午後 3 時現在で終了したところです。889 世帯のパトロールが完了し、支援実施世帯数は 4 世帯、昨日と合わせて 17 世帯となりました。

市民の皆様におかれましては、これまでに経験のない降雪で、大変不安でお過ごしの方も多かったと思います。また、連日の雪かき作業などで大変お疲れのことと存じます。現在、屋根などには多くの雪が積もっていますので、外出時には改めて十分ご注意ください。また、「落雪等により玄関が塞がれて家から出られない」などの緊急支援が必要な場合には、随時対応できるように体制を整えておりますので、ぜひ、除排雪対策本部までご連絡いただきたいと思います。

また、除雪や雪下ろしの作業を行う際は、特に気温が上がると屋根が滑りやすくなり非常に危険です。天候や体調を考慮して、事故防止にも十分ご留意いただきますようお願いいたします。私も除排雪作業、特に排雪作業を懸命に、フル稼働状態で行っておりますが、皆さまにもそれぞれ無理をなさらないようにご注意くださいようお願いを申し上げます。

最後になりますが、幹線道路の幅が狭くなるなど、ご不便をおかけしておりますが、市では総力を挙げて拡幅作業に取り組むとともに、ソフト面の対策を含めた総合的な雪対策を進めることで、岩見沢市特有の厳しい冬を乗り越えていきたいと考えています。今後とも、市民の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

< 質疑応答 >

(北海道新聞)

連日の除雪作業お疲れ様です。今回かなりの降雪が続いたということで、まず今除排雪を実施されて、市長としてこの進捗をどれぐらいと受け止めていらっしゃるか、このまちの状況を見て、十分とかもっと進めたいとか、ございますか。

(市長)

今継続している作業は日曜日まで継続する予定です。この間、バスは止まりましたが、ごみ収集ですとか、あるいは市内の交通ですとか、車道拡幅に努めてきたので大きな混乱はなかったかとは考えていますが、ご不便をおかけしたのも事実です。バスについては、今現在であと 2 路線残っているはずですが、これも今日中に復旧するというので連絡もいただいていますので、今後とも、バス事業者の方としっかり連携を取りながら、ご不便をおかけしないような体制は、私どももそうですし、事業者さんもそうですし、また道道を管理する北海道さんもそうですが、

連携して取り組んでいきたいと考えています。

（北海道新聞）

今回豪雪パトロールも既に実施されたということですが、支援実施というのが、雪かきなどをした数ということでしょうか。

（市長）

そうですね。例えば間口を確保するだとか、あるいは給排気口のところの除雪をするだとか、あるいは雪庇が危険なところは雪庇を落とすという、必要な支援を行うことにしています。

（北海道新聞）

対象世帯数に対して実際の支援件数 17 世帯という、割と数としては、幸いというか、多くないといえますか。

（市長）

そうですね。例年降雪の多い、あるいは積雪が深いときには豪雪パトロールを、去年は実施しなかったのですが、大体 2,500 世帯を対象として実施するのですが、支援実施世帯は大体これくらいでしょうか。20 世帯くらいだと思いました。

（建設部長）

一人暮らしであっても、例えば近くにお子さんなどが住んでいたとしても、この世帯数にはカウントされますので、綺麗に除雪されている家も結構あります。

（市長）

また間口除雪の助成ですとか、定期排雪ですとか、そういった支援をお使いいただいている方もいらっしゃると思いますので、大体支援実施世帯は 20 世帯いくらかいかなかったという記憶があります。

（北海道新聞）

今回、未曾有の降雪というお話だったのですが、改めて、自分たちで除雪する、自助の部分も大変ですし、お隣同士で助け合うのもやはり今度は雪を捨てる場所がないとか、なかなか難しいところがまた見えたと思うのですが、その中で、市役所として、公助の部分のところで課題であるとか、これからさらに取り組みたいことなどは、何かありますでしょうか。

（市長）

除排雪事業だけでなく、それに付随して、例えば置き雪の問題が発生します。それに対する助成措置ですとか、あるいは屋根の雪下ろし作業のご支援ですとか、あるいは定期排雪というメニューもございますが、そういったものを拡充しながら実施していて、かなりご利用もいただいています。やはり岩見沢ならではの降雪で、岩見沢の除雪は割とすぐって行くんですね。生活道路を圧雪するのではなくて、岩見沢は基本的には全てさらって行くので、そうするとどうしても置き雪が発生するので、置き雪の処理に対する助成措置を作っています。それから元々、町内会で

実施するボランティア除雪という支援制度もございますので、各町内会で、例えば独居の方すとか、高齢者の方、あるいは障害のある方、そういったことで共助の分野でもご支援している制度もありますので、そういった制度をいろいろお使いいただきながら、何とか冬の暮らしを維持しているということになるかと思えます。ですから、これらの周知と、特に緊急の場合には、除排雪対策本部で先ほど申し上げた通り連絡をいただければ即座に対応できる体制も整えていますので、ご利用いただければと思っています。

（北海道新聞）

今回、時ならぬ雪ということで、除雪の関係の予算とか、そちらへの影響は出ていますでしょうか。

（市長）

今後出てくる可能性はあると思っています。まだ排雪作業等々も当初見込んだ予算の範囲内ですが、ただ今後の雪の降り方によっては当然足りなくなることもありますので、その時には速やかに補正予算を編成して、議会で決定いただいた後、しっかり雪対策、除排雪作業が特に一番経費的にはかかりますけれども、それはしっかり対応してまいりたいと思っています。

（北海道新聞）

まだ予算には余裕がありますか。

（市長）

排雪でいうと、80 kmぐらい当初予算で構えている部分があり、今 20 kmぐらいですので、まだ余裕はあるかと思えます。ただ今後次第です。その時には、毎年そうなのですが、即座に補正予算を組んで執行していますので。去年は 12 月に 24 時間 73 cm という降雪があって、その後ずっと継続して排雪作業を行って、1 月 4 日の仕事始めの当初から補正予算の議論を始めたという状況もありましたので、そこは速やかに対応してまいります。

（北海道新聞）

市民の皆さんに伺うと、雪を捨てる場所がないとか、排雪がやはり悩みどころだと思うんです。何かいい案がないものかと。

（市長）

公園の雪入れですとか、いろいろ工夫をして、それから除雪の際にも、雪押し場の確保とか、押し付けていくところ、件数的にはかなりあります。

（建設部長）

地域雪堆積場を設けており、これは総合的雪対策でもご説明したところですが、道路の雪は、一時的に押し込むような場所をいろいろ設けておりまして、そういうところは活用していただいて構いません。ただ、地域の方が、例えば屋根の雪下ろしをした雪などはご遠慮いただきます。道路の置き雪をママさんダンプで入れる程度は問題ないと考えています。

(市長)

その他に、町内会ごとに地域自主排雪の支援を行っていますので、去年は確か43町会ぐらいお使いいただいたかと思いますが、いわゆる生活道路の排雪作業ということでご利用いただいているケースもあります。

ただ今年は西と東は全然様相が変わっています。特に北から東にかけて、日の出から東といったところが厳しい。幌向はほとんど影響を受けていなくて、幌向は50cmの積雪ですから、半分以下になります。岩見沢のアメダスが5条東15丁目に設置されているのですが、そこと比べると、幌向は消防の西出張所で50cm、栗沢も消防の支署で43cmなので、本当に極端です。

いろいろとストレスのかかる雪でしたし、市民の方にはご不便をかけたのは事実で本当に申し訳ないと思っているのですが、できるだけその影響を抑えるように取り組んでいます。

(北海道新聞)

今回レベル3に上げられましたが、さらに上げる基準がもし何かあれば。

(市長)

レベル4が「豪雪対策本部体制」で、積雪量に一応の基準を設けています。今のレベル3では、積雪深が気象庁公表の平年値120cmに達した、あるいはそれに近づく降雪が予想されるとき。その次が「豪雪対策本部」ということで、災害の発生の恐れがある場合、災害が発生した場合になるのですが、これは平年値の1.3倍で大体156cmぐらいという、一応目安は持っています。その他にもいろいろな要件はありますが、そういったものを作っていますので、それに応じた組織体制とそれに応じた対策を立てて実施しているところです。

(北海道新聞)

2020年の大雪のときぐらいのペース、今回少し前倒しで来ているという感じでしょうか。

(市長)

昨年も24時間73cmで、その翌日から排雪がフル稼働状態に入りましたので。ただ、トータルで2020年(令和2年度)とか平成23年度になるのは嫌だなと思いますけれども。令和2年度の9m44cmもかなりのストレスでした。

ただ、この資料を見てもお分かりのとおり、本当に赤と紫が6日間に集中しているんですよね。こういう降り方は、実は令和2年度にもなかったですし、平成23年度にもなかったんです。過去に経験がないというのはそういうことなんです。

今の時期、いろいろな方にお会いすると大体雪の話題から入ってくるのですが、こんなの経験したことないよねとおっしゃる方がほとんどですね。そんな降り方でした。

(北海道新聞)

高齢の方、今回パトロールはされたと思いますが、市民の方で実際日々の暮らし、雪で困られる方はいらっしゃると思うんですよね。特にお年寄りなのかなと。高齢化も進んで、どういうふ

うに、市民生活の安全とか、市長がかねがね仰っているような体制だったり、関わり方だったり
を築かれていくのかなと思ったのですが。

(市長)

どうしても岩見沢はこれだけの降雪量、平年値が 6m66cm ですから、札幌に比べても段違いに
多い。札幌の 1.5 倍ぐらいあるはずですが、それだけの降雪量があるので、道路通行とかいろい
ろなことを考えると、どうしても圧雪状態で雪を残していくと、逆に市民生活にも大きな支障が
出るので、できるだけ削るようにすると、どうしても置き雪が発生します。かき分け除雪なので
どうしても置き雪が発生するのですが、その置き雪は大きな負荷になりますので、その始末を、
自分が市長になってから総合的な雪対策ということで、間口除雪の支援制度、民間の事業者の方々
に頼んで、そういう助成制度を作ったり、それから屋根の雪下ろしで、やはり作業中に事故とい
うケースもありましたので、そこは安全装備を貸し出したり、あるいは排雪作業を頼んだ際の助
成制度を作ったり、いろいろと岩見沢ならではの工夫をしながら、いわゆる弱者支援といいま
すか、そういったことには取り組んできています。その他に、元々あった地域ボランティア除雪制
度など、いろいろと組み合わせて行っているのと、地域自主排雪事業は近年非常にご要望も多
くなってまして、やはり町内の道路の景色が一変しますので、そういった意味では有効に使っ
ていただいている制度かなと思っています。

それと、豪雪パトロールですね。やはり緊急時には見回って、声掛けをして安否確認と同時
に危険性のあるところについては速やかに市の職員が対応すると。

(北海道新聞)

今のところ幸いにして、人的な被害はないようでしょうか。

(市長)

人的な被害はまだ報告はなかったと思います。去年除雪中の事故が 14 件ぐらいあったん
です。豪雪パトロール中にも事故はありませんでした。

(北海道新聞)

今回、アプリを今年から運用される会社はどのくらいになりますでしょうか。

(市長)

できるだけ早く運用しようと思った矢先のこの豪雪なので、実はまだ業者の方といろいろ設
置に向けての協議が進んでない状況にあります。それもできるだけ年内には整えて「除排雪管理作
業支援システム」の運用を実施したいと思っています。

今はもう当面のこの豪雪の対策に、除雪と排雪両方なさっている業者の方はほとんど寝ないよ
うな状況でもう 1 週間以上続いています。ただ、業者の方にも何人かは直接お話を聞いたので
すが、平成 23 年に比べたらまだまだ、というふうにおっしゃる方もいて、頼もしく、また申し訳
なくも思いましたが。

現在利用したいという方は 18 社いらっちゃって半数を超えています。そういった方々と今後

の協議をして、また現段階で検討中ということでお答えいただいている方も 10 社ございますので、合わせて 28 社の方と設置に向けた協議をできるだけ整えて、1 月から何とかシステムを稼働したいと思っています。

（北海道新聞）

今 28 社というお話でしたが全体で何社ぐらいあつての 28 社でしょうか。

（市長）

35 社のうちです。除排雪業者の約 8 割に当たります。台数的にも、いろいろな除排雪車両、ロータリーもあれば、ショベルとかドーザーとかもありますが、約 61 台が利用予定と報告を受けています。これは全体の 34%が利用するということで回答いただいているのと、それから今検討中の 10 社の車両を含めて全体では 71 台ぐらい搭載できるのではないかと思います。市としてはできるだけ多く 100%を目指して取り組みを進めていきたいと思ひますし、これまで実証結果も踏まえて改良したシステムになりますので、今後ともご意見を聞きながら、改良しながらより良いシステムの搭載に向けて、取り組んでいこうと思っています。

（北海道新聞）

なかなか市域も広いですし、どういうふうに効率的に除排雪して市民生活を滞りなくするかのプランニングというか、とても大変だと思うのですが。

（市長）

ただルートは決まっていますので、そのルートの危険物のアラームですとかをタブレットに表示すると、一番負担が少なくなるのは作業日報が全て自動的に作成されますので、そういった分野での負荷は大きく減るのだらうと思っています。事務的なところですね。

（建設部長）

例えば一つの会社で 5 台ぐらいの除雪車両を持っていたとしても、まず今年は 1 台、若い人が試しに使ってみて、どういう使い方なのか、という業者さんが 10 社ぐらい検討中という話なのですが、ゆくゆくは全車両に付けてもらって、使えるようにしたいと思っています。

3 その他記者から質問

< 質疑応答 >

（北海道新聞）

市立総合病院の関係でお尋ねします。事業費の関係、見直しの今の進捗状況と申しますか、どのような見通しになりそうかも含めてお話しいただければと思います。

（市長）

事業費についてはまだ詰めている最中になります。年明け、1 月末ぐらいですかね、それまではその作業を継続していこうと思っています。なかなか課題も大きいですし、経営統合の問題も並行して今議論を進めていますので、しっかりとした経営と両立するような新しい病院の建設ということで、そこはしっかりやっていこうと思っています。またもう少し時間がかかります。1 月末

ぐらいかと思っています。

（北海道新聞）

建物は違うのですが、例えばお隣の月形町さんで、建設資材費が相当上がっていて、義務教育学校の開校をどうするか、というお話をされていますが、やはり今議論を進めている中でも、資材費が大きいのでしょうか。今調整しているのは。

（市長）

そうですね。元々基本計画で 340 億円ぐらい、基本設計で 400 億円、それを今削減に向けて、フロアも 1 フロア抜いて、病床数も落として、今いろいろ作業を進めていますので。ただ、今の市立病院の施設と、今の中央労災病院の施設では医療がなかなか難しい状況に陥っているのも事実だと思います。例えばエアコンもないとか、それから駐車場が狭いとか、特に急性期の病床数だけあって稼働率が低いですとか、そういった課題をトータルで解決して、岩見沢市が南空知の医療圏の中で急性期をしっかり担うことと救急体制をしっかり維持するということは、今後の人口が減っていく中であって、南空知の医療圏としてはやはり重要になるので、そこは今しっかり取り組んでいるところです。

（北海道新聞）

砂川市立病院さんも病床数を減らすというご判断をされていますが、そういった他の病院さんの判断が岩見沢の規模などに影響する可能性はありますか。

（市長）

いえ、岩見沢市は、事業費もそうだったのですが、改めてコロナ明けの患者さんが戻ってこないというところで、病床数を大きく見直しました。その見直しは、実は砂川よりも先行して行っていました。そんな状況の中で、コロナ明けで患者さんが戻ってこない、全国の公立病院どこもそうなのですが戻ってきていない。建ててしまった後に減らすというよりは、建てる前で減らすことができたので、それはそれで何とか、良かったとは言いませんけれども適正な規模で。本当に患者さんが戻ってこないというのが、どこも大きな課題です。急性期を標榜しているところはそういう傾向が強いのだろーと思います。

（北海道新聞）

ただ、そうなりますと長い目を見たときにどうしても、どうやって患者さんに来てもらうかという仕掛けとか働きかけ、他病院との連携とかも含めて絵を書いていくことが必要でしょうか。

（市長）

はい。それは南空知の医療圏構想の会議の中でもそういう議論はやはり必要だと思っていますし、特に救急体制がどうやって維持できるのかというのは、大きなポイントの一つになるという気がします。急性期は岩見沢で、慢性期あるいは回復期等々もそうですが、そういったものと連携できるように、お考えいただけるように、情報発信に努めていきたいと思っています。

（北海道新聞）

1 月末に新しい事業費含めて、お話されるときに、そういった医療圏のお話もセットで入ってくる可能性はありますか。

（市長）

医療圏の話はそれとは別に医療圏の話としていろいろ連携を取れるような会議を行っていますので。

（北海道新聞）

ある意味、経営計画と患者さんの動向をやはりセットにして考えないと、なかなか推計できない部分もあるかと思うのですが。

（市長）

総人口自体が減ってくるのと、高齢者人口も減りますが、医療需要はそこまで減らないという推計もありますので、そこはしっかり分析しながらになるかと思います。

また、病院が新しくなるということで、ぜひ患者さんにはご利用いただければと思います。健康なのが一番ですが。

（注）この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。（作成：総務部秘書課広報室）